

はしがき

私共は「龍谷大学図書館蔵中世歌書の研究」というテーマで新たに研究を申請し、幸いにも平成二十三年から三年間、龍谷大学仏教文化研究所の指定研究に採用された。その研究成果の一つとして三年目の平成二十五年七月に龍谷大学善本叢書31『中世歌書集』（全一冊）を思文閣出版から刊行することができた。当叢書には龍谷大学図書館に所蔵する中世歌書類のうち、『愚見抄』『光闡百首』『詞字注』『自讃歌注』『九代抄』の五点を影印し、解説して収録した。

この度の研究叢書は、その調査・研究の過程で問題になった諸点や、各研究員がこれまで温めてきた問題を論文にまとめ、文学篇、書誌・出版篇、歴史・思想篇の三部に分けて一書にしたものである。当研究叢書には私共の研究を温かく見守って下さっていた故石原清志先生のご遺稿も掲載している。この叢書を編集する時点で偶然にも先生のご遺稿を入手することができたためである。その内容は仏教を一つの視点に据えた古代から中世までの先生の日本文学史である。当叢書の内容にも合致するためここに掲載させていただくことにした。

私共のプロジェクトに所属する研究員は、この度の研究テーマの和歌文学を専門とする者だけの集まりではなく、時代や分野が異なった研究員も加わっている。それは研究対象を多面的に見

るためでもある。それだけに各研究員の論文内容も多岐にわたっているが、今後共、忌憚のないご批評、ご鞭撻をお願いする次第である。

尚、本書の出版にあたっては、思文閣出版編集部の大地亜希子氏には、編集並びに校正をはじめ細やかなご配慮を賜りました。特記してあつくお礼申し上げます。

二〇一四年六月吉日

大取一馬

目次

はしがき

第一部 文学篇

日本仏教と文学	石原清志	三
「草の庵を誰かたづねむ」小考	若生 哲	三九
『源氏物語』玉鬘十帖における紫の上の位置づけ		
——錯綜するまなざしに着目して——	櫛井亜依	六一
『俊頼髓脳』の異名	鈴木徳男	八一
『嘉応二年十月九日住吉社歌合』伝本と本文考	安井重雄	一一七
三百六十番歌合の式子内親王歌の世界——後鳥羽院撰者説をふまえて——	小田 剛	一五五
藤原良経「吉野山花のふる里」考	小山順子	一七七
源氏物語『奥入』における定家の「引歌」意識について	大取一馬	二〇七
土御門院の句題和歌——『文集百首』を通して——	岩井宏子	二三三
後世における『沙石集』受容の在り方と意義——「思潮」としての『沙石集』——	加美甲多	二六五

『源平盛衰記』と聖徳太子伝

—— 卷第十「守屋成三啄木鳥事」と卷第二十一「聖徳太子椋木」を中心に—— …… 浜畑圭吾：二八九

常縁原撰『新古今集聞書』から幽斎増補本への道程 …… 近藤美奈子：三二五

不産女地獄の表現史——差別と救済の思想—— …… 田村正彦：三三九

「李陵」考——表現等を巡って—— …… 齋藤 勝：三六五

第二部 書誌・出版篇

『和歌題林抄』古筆切の検討（続） …… 日比野浩信：四〇一

仏教と坊刻本仏書 …… 万波寿子：四三五

大田垣蓮月尼と平井家の交流について——醍醐寺の旧坊官家宛書簡をめぐって—— …… 山本廣子：四五五

第三部 歴史・思想篇

古代尺よりみたわが上代文物——薬師寺について—— …… 關根真隆：1

藤原道長の高野山・四天王寺参詣の道程 …… 内田美由紀：四七三

佛光寺本『善信聖人親鸞伝絵』の神祇記述について——付加された理由と役割—— …… 吉田 唯：四九一

地下伝授の相承と変容——墨流斎宗範—— …… 三輪正胤：五一七

執筆者紹介

日本仏教と文学

石原清志

はじめに

日本仏教と文学というテーマで執筆するに当り、古代から現代に至るまでの広汎な日本の仏教と文学の展開を詳しく叙述することは紙幅の関係で困難であるから、仏教も文学も古代から中世までを重点的に叙述することとする。⁽¹⁾

一 日本仏教と文学（古代）

(1) 古代仏教

仏教が日本へ伝来したのは公的には『日本書紀』の記録から欽明天皇十三年（五五二）に百済の聖明王が仏典・仏像その他を朝廷に献上した時だとしているが、おそらくそれ以前に半島から渡来して帰化した人達が私的に仏教を信仰し、仏像を礼拝していたであろうということは推測出来る。それはわが国と朝鮮半島とは早くから文化

交流が活発に行なわれていた事が考古学的遺品や『日本書紀』の記述を見ても明らかだからである。その一例は『扶桑略記』によれば、村主司馬達等が継体天皇十六年（五二二）に来朝した中国人であり、仏教徒であると記している。

欽明朝の頃は血縁で結ばれた氏族が勢力を持っており、それらの中で最強の蘇我氏と物部氏が反目し、対立していた。改進黨の蘇我氏は崇仏、守旧派の物部氏は排仏の立場をとり、その反目は戦いとなった。蘇我氏が勝利した後は、対外的には友好政策をとり、国内では仏教尊崇の立場をとって氏寺を建立した。改進黨の氏族は蘇我氏にならってそれぞれの氏寺を建て仏像を礼拝した。やがて法隆寺や多くの寺院が建立された。大化の改新の後、聖徳太子の尽力もあってわが国が律令国家となるに及んで、仏教は着実に日本に根をおろして、造寺造仏も進み奈良へ遷都の後、大寺が続々と建立されて、奈良は後代から「咲く花の匂ふが如し」とたたえられるように発展して律令体制が強化された。仏教は国家宗教的な観を呈するに至った。

平城京で律令国家の權威を象徴する東大寺大仏殿に奈良大仏が建立されたのは歴史的な大事業であった。これは中国の雲崗の大毘盧舎那仏に對比するかのようになり、大陸の仏教芸術の影響によるものである。奈良大仏は『華嚴經』の蓮華世界を形象化したものであり、その華嚴の世界は天皇を中心とした律令制の国家組織を宗教的に表現したものである。天平の芸術は前代の飛鳥・白鳳期の芸術の上に立って円熟したわが国の仏教芸術の粋を現わしているのである。

仏教が公的にわが国に伝えられた後に、推古天皇の世になると二年（五九四）二月に皇太子及び大臣に対して仏・法・僧の三宝興隆の詔が下されており、十二年（六〇四）四月には、天皇は皇太子・大臣・諸王・諸臣と共に誓願して、銅造及び繡造の丈六の仏像一体を造立して、それを翌年四月に飛鳥寺（法興寺・元興寺）に納めたこと

主な論著に、『校本和歌一字抄 付索引・資料』（共編著、風間書房、2004年）、『五代集歌枕』（共著、みずほ出版、2006年）、『古筆切影印解説Ⅳ 十三代集編』（共著、風間書房、2010年）、『二条為氏と為世』（笠間書院、2012年）など。
『和歌題林抄』古筆切の検討（続）

万波寿子（まんなみ・ひさこ）

1977年生。龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得。博士（文学）。現在、龍谷大学非常勤講師。「宣長版本における版權の流れ」（『鈴屋学会報』第21号、2005年）、「近世後期における公家鑑の出版」（『近世文芸』第94号、2011年）、「江戸時代の西本願寺と出版」（前田雅之編『もう一つの古典知』アジア遊学155、勉誠出版、2012年）など。
仏教と坊刻本仏書

山本廣子（やまもと・ひろこ）

1943年生。同志社大学文学部卒業。現在、公益社団法人 家族問題情報センター相談員。主な論著に、『狂歌百人一首泥亀の月を読む—戯劇百人一首闇夜磔への改作』（武蔵野書院、2009年）、「大田垣連月の歌をめぐって—悲哀を乗り越えて—」（『龍谷大学古典芸論叢』第5号、2013年）など。
大田垣連月尼と平井家の交流について—醍醐寺の旧坊官家宛書簡をめぐって—

第三部 歴史・思想篇

關根真隆（せきね・しんりゅう）

1933年生。立正大学大学院修士課程修了。文学博士（國學院大學）。元聖徳太子奉賛会研究生・宮内庁正倉院事務所保存課長。主な論著に、『正倉院文書事項索引』（2001年）『奈良朝食生活の研究』（1969年）『奈良朝服飾の研究』（1974年）『正倉院への道』（1991年、以上吉川弘文館）、「古代尺よりみた法隆寺遺宝」（大取一馬編『典籍と史料』龍谷大学仏教文化研究叢書、思文閣出版、2011年）など。
古代尺よりみたわが上代文物—薬師寺について—

内田美由紀（うちだ・みゆき）

1962年生。大阪女子大学大学院修士課程修了。現在、大阪府立三国丘高等学校教諭。主な論著に、『伊勢物語考—成立と歴史的背景』（新典社、2014年）、「伊勢物語『小式部内侍本』の本文について」（『中古文学』創立三十周年記念臨時創刊号、1997年）など。
藤原道長の高野山—四天王寺参詣の道程

吉田 唯（よしだ・ゆい）

1983年生。龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。現在、兵庫大学短期大学部非常勤講師・高野山大学密教文化研究所受託研究員。主な論著に、『『沙石集』という〈名〉の踏襲をめぐって—『続沙石集』を中心に—』（『無住 研究と資料』、あるむ、2011年）、「『諸神本懐集』を中心にみる〈存覚〉の神祇観と祖師という表象について」（『仏教文学』第35号、2011年）、「『諸神本懐集』におけるアマテラス像—『神本地之事』との比較を中心に—」（存覚教学研究会編『存覚教学の研究』、永田文昌堂、2014年）など。
佛光寺本『善信聖人親鸞伝絵』の神祇記述について—付加された理由と役割—

三輪正胤（みわ・まさたね）

1938年生。大阪大学大学院文学研究科博士課程単位取得。大阪府立大学名誉教授。主な論著に、『歌学秘伝の研究』（風間書房、1994年）、「近代高野山の学問」（新典社、2006年）、「神道歌学の成立—卜部兼雄の業績—」（大取一馬編『典籍と史料』龍谷大学仏教文化研究叢書、思文閣出版、2011年）など。
地下伝授の相承と変容—墨流斎宗範—

笠間書院, 2011年), 「天理図書館蔵『俊成家集』考」(『ビブリア』第140号, 2013年) など。
藤原良経「吉野山花のふる里」考

岩井宏子(いわい・ひろこ)

1937年生。甲南大学大学院人文科学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士(文学)。現在、龍谷大学仏教文化研究所研究員。主な論著に、『文集百首全釈』(共著、風間書房、2007年)、『古今の表現の成立と展開』(和泉書院、2008年)、『土御門門院句題和歌全釈』(風間書房、2012年) など。土御門院の句題和歌—『文集百首』を通して—

加美甲多(かみ・こうた)

1978年生。同志社大学大学院文学研究科博士課程後期課程修了。博士(文学)。現在、同志社国際中学校・高等学校嘱託講師。主な論著に、『『沙石集』と経典における譬喩—『百喩経』との比較を端緒として—』(『仏教文学』第34号, 2010年)、『無住と梵舜本『沙石集』の位置』(『無住 研究と資料』, あるむ, 2011年)、『『沙石集』諸本と譬喩経典』(『説話文学研究』第47号, 2012年) など。後世における『沙石集』受容の在り方と意義—「思潮」としての『沙石集』—

浜畑圭吾(はまはた・けいご)

1978年生。龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得。博士(文学)。現在、高野山大学助教。主な論著に、『源平盛衰記』『髑髏尼物語』の展開』(『軍記物語の窓』第4集, 和泉書院, 2012年)、『源平盛衰記』『長光寺縁起』の生成』(『国語と国文学』2013年4月号)、『願成寺をめぐる二つの縁起』(大橋直義ほか編『中世寺社の空間・テキスト・芸芸—「寺社圏」のパスベクティブ』アジア遊学174, 勉誠出版, 2014年) など。『源平盛衰記』と聖徳太子伝—巻第十「守屋成・啄木鳥事」と巻第二十一「聖徳太子椋木」を中心に—

近藤美奈子(こんどう・みなこ)

1953年生。甲南女子大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。現在、甲南女子大学非常勤講師。主な論著に、『文集百首全釈(歌合・定数歌全釈叢書 八)』(共著、風間書房、2007年)、『新古今今私抄』の実態について』(『甲南国文』第59号, 2012年)、『書院部蔵『新古今和歌集注抜書』について』(『甲南国文』第60号, 2013年) など。常縁原撰『新古今集聞書』から幽斎増補本への道程

田村正彦(たむら・まさひこ)

1972年生。大東文化大学大学院文学研究科博士課程後期課程修了。博士(日本文学)。現在、大東文化大学非常勤講師、明治大学兼任講師。主な論著に、『貨幣経済と地獄の思想—地獄の沙汰も金次第—』(『蓮花寺佛教研究所紀要』第5号, 2012年)、『圓福寺(春日部市)「閻魔王宮と八大地獄図」とその開帳—信仰と娯楽の狭間で—』(『佛教藝術』第326号, 2013年)、『三途の川の信仰について—王朝物語と十王経—』(加須屋誠編『仏教美術論集4 図像解釈学—権力と他者』, 竹林舎, 2013年) など。不産女地獄の表現史—差別と救済の思想—

齋藤 勝(さいとう・まさる)

1947年生。龍谷大学文学部卒業。主な論著に、『中島敦書誌』(和泉書院, 1997年)、『『中島敦書誌』その後』(『日本仏教文化論叢』, 永田文昌堂, 1998年)、『杉本秀太郎』ほか執筆(『京都近代文学事典』和泉書院, 2013年) など。『李陵』考—表現等を巡って—

第二部 書誌・出版篇

日比野浩信(ひびの・ひろのぶ)

1966年生。愛知淑徳大学大学院博士後期課程修了。博士(文学)。現在、愛知淑徳大学非常勤講師。

◎執筆者紹介(収録順)◎

第一部 文学篇

石原清志(いしはら・きよし)

1919年生, 1999年逝去。大阪市立大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。龍谷大学名誉教授, 神戸女子大学名誉教授。主な論著に、『日本仏教文学』(佛教大学, 1963年), 『釈教歌の研究』(同朋舎出版, 1980年), 『発心和歌集の研究』(和泉書院, 1983年)など。
日本仏教と文学

若生 哲(わかいき・さとし)

1963年生。甲南大学大学院人文科学研究科修士課程修了。現在, 龍谷大学仏教文化研究所客員研究員。主な論著に、『拾遺集の万葉撰取一貫之・人麿をめぐって』(『川口朗先生退職記念文集』, 和泉書院, 1989年), 『翻刻『鳥居小路家』家伝』(共編, 『中世和歌の研究—資料と考証—』, 新典社, 1990年), 『藤村琢堂画『清少納言之図』小見』(『相愛大学研究論集』第29巻, 2013年)など。
『草の庵を誰かたづねむ』小考

榎井 亜依(くしい・あい)

1981年生。同志社大学文学研究科博士後期課程退学。現在, 愛知淑徳大学常勤講師。主な論著に、『源氏物語』少女巻における六条院造営の意義—「ふる宮」という表現をめぐって』(『文化学年報』(同志社大学)第60号, 2011年), 『源氏物語』二条東院から六条院の階梯—邸第と人物の据え直し—』(『文化学年報』(同志社大学)第59号, 2010年), 『源氏物語』「紫のゆかり」考—歌語としての「紫」を視座に—』(『同志社国文学』第70号, 2009年)など。
『源氏物語』玉鬘十帖における紫の上の位置づけ—錯綜するまなざしに着目して—

鈴木 徳男(すずき・のりお)

1951年生。龍谷大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。現在, 相愛大学人文学部教授。主な論著に、『俊頼髓腦の研究』(思文閣出版, 2006年), 『続詞花和歌集新注』上・下(青簡舎, 2010・2011年)など。
『俊頼髓腦』の異名

安井 重雄(やすい・しげお)

1961年生。龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得。博士(文学)。現在, 兵庫大学教授。主な論著に、『藤原俊成 判詞と歌語の研究』(笠間書院, 2006年), 『道因勸進『住吉社歌合』『広田社歌合』の奉納と位署と俊成』(『国語国文』第78巻7号, 2009年), 『紀行と和歌—地名を詠むということ—』(錦仁編『中世詩歌の本質と連関』, 竹林舎, 2012年)など。
『嘉応二年十月九日住吉社歌合』伝本と本文考

小田 剛(おだ・たけし)

1948年生。神戸大学大学院文学研究科修士課程修了。現在, 龍谷大学仏教文化研究所客員研究員。主な論著に、『式子内親王全歌注釈』(和泉書院, 1995年), 『小侍従全歌注釈』(同, 2004年), 『定家正治百首, 御室五十首, 院五十首, 注釈』(同, 2010年)など。
三百六十番歌合の式子内親王歌の世界—後鳥羽院撰者説をふまえて—

小山 順子(こやま・じゅんこ)

1976年生。京都大学大学院文学研究科博士課程研究指導認定退学。博士(文学)。現在, 国文学研究資料館研究部・総合研究大学院大学准教授。主な論著に、『後柏原天皇御会「伊勢物語詞連歌」の位相—(伊勢詞)の展開から—』(『隔月刊 文学』第12巻4号, 2011年), 『藤原良経』(コレクション日本歌人選,

◎既刊図書案内◎

大取一馬責任編集

禿氏文庫本

龍谷大学善本叢書29

ISBN978-4-7842-1539-3

龍谷大学名誉教授禿氏（とくし）祐祥博士寄贈の文庫は、梵文經典や中国・日本の仏書をはじめ、真宗史・仏教美術に関する典籍、絵画等多岐にわたっており、総数2300余点に及ぶ。平成20年からの龍谷大学仏教文化研究所の指定研究のもと、仏教・真宗・国史・国文の4班で行われた調査の結果を影印として一冊にまとめたものである。▶A5判・674頁／定価14,700円

大取一馬責任編集

中世歌書集

龍谷大学善本叢書31

ISBN978-4-7842-1688-8

龍谷大学図書館所蔵、写字台文庫（西本願寺歴代宗主が収集した文庫で、仏教、真宗をはじめ芸能、本草学、医学、文学、歴史の多岐にわたり、室町期にまでさかのぼる古刊本、古写本等のコレクション）旧蔵の歌書のうち、天下の孤本や最古の写本、内容上意義深いものなど貴重書と認められる5点の典籍を選び影印公刊し、解説を付す。▶A5判・650頁／定価13,300円

大取一馬編

中古中世和歌文学論叢

龍谷大学仏教文化研究叢書9

ISBN4-7842-0983-2

歌論書、歌合判詞、私家集、私撰集、古筆切などをとおして、中世中古の和歌の理念や特質、古代和歌受容の問題、さらには作品の成立や解釈に関わる問題、新出資料の価値や散佚私家集を解明する問題に取り組む。【執筆】家郷隆文・石原清志・日下幸男・部矢祥子・中西潔・小林強・木村初恵・安井重雄

▶A5判・300頁／定価8,190円

大取一馬編

中世の文学と学問

龍谷大学仏教文化研究叢書15

ISBN4-7842-1271-X

戦乱続く中世の文学では、人間の本質的な部分を深く追究する傾向がある。本書は中世の文学や学問の特質の一端を考察。【執筆】三輪正胤・安井重雄・来田隆・鈴木徳男・小山順子・忠住佳織・松田美由貴・浜畑圭吾・宮川明子・西山美香・中條敦仁・小林強・万波寿子・日下幸男

▶A5判・492頁／定価8,820円

糸井通浩編

日本古典随筆の研究と資料

龍谷大学仏教文化研究叢書19

ISBN978-4-7842-1349-8

龍谷大学図書館所蔵の日本古典随筆に関する伝写本を悉皆調査した研究プロジェクトの成果。『枕草子』『徒然草』雨森芳洲『交隣提醒』についての研究論文7篇に加え、重要と思われる古典随筆伝写本5本を翻刻紹介する。【執筆】安藤徹・東望歩・外山敦子・糸井通浩・木村雅則・朝木敏子・山崎泰正・忠住佳織・万波寿子・雨森正高

▶A5判・482頁／定価7,560円

大取一馬編

典籍と史料

龍谷大学仏教文化研究叢書28

ISBN978-4-7842-1592-8

龍谷大学仏教文化研究所の研究者陣による、真宗学・仏教学・史学・国文学等の分野にまたがる広汎な仏教文化の研究成果。【執筆】内田美由紀・鈴木徳・安井重雄・岩井宏子・小田剛・日比野浩信・浜畑圭吾・加美甲多・酒井茂幸・小山順子・三浦俊介・田村正彦・關根真隆・玉木興慈・楠淳澄・後藤康夫・新倉和文・原田信之・三輪正胤・日下幸男・内田誠一・万波寿子

▶A5判・686頁／定価8,400円

思文閣出版

（表示価格は税別）

■編者略歴■

大取一馬（おおとり・かずま）

1947年生。龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。現在、龍谷大学文学部教授。『新勅撰和歌集古注釈とその研究』上・下（思文閣出版、1986年、編著）、『詞源略注』（古典文庫、1984年、編）、龍谷大学善本叢書31『中世歌書集』（思文閣出版、2013年、編）など
源氏物語『奥入』における定家の「引歌」意識について

にほんぶんがく しゅうへん
日本文学とその周辺 龍谷大学仏教文化研究叢書 33

2014(平成26)年9月30日発行

定価：本体8,400円(税別)

編者 大取一馬

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-751-1781(代表)

印刷 株式会社 図書印刷 同朋舎
製本

© Printed in Japan, 2014

ISBN978-4-7842-1771-7 C3091